

**SONGS #6 光景**  
一心のネガに光をあてる



1

**SONGS #7 ミーナの世界&ミーちゃん**  
—写真は愛とタイミング



2



3

- 1「宮城県七ヶ浜」2010年
- 2「ミーちゃん」1998年
- 3「ミーナの世界」2004年

写真はすべて平間至 ©Itaru Hirama

**PROFILE**



©Itaru Hirama

**平間至(ひらま・いたる)**

1963年、宮城県塩竈市に生まれる。日本大学芸術学部写真学科を卒業後、写真家・伊島薫氏に師事。タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」のキャンペーンポスターをはじめ、多くのミュージシャンの撮影を手がける。2006年よりゼラチンシルバーセッションに参加。2008年より「塩竈フォトフェスティバル」を企画・プロデュース。2012年より塩竈にて、音楽フェスティバル「GAMA ROCK FES」を主宰。2015年1月、東京・三宿に平間写真館TOKYOをオープン。

**観覧料**

一般:1000(800)円  
大学・高校生、65歳以上:700(560)円

※( )内は20名以上の団体料金  
※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

**関連イベント情報**

**平間至 スペシャルトーク**

日時:7月6日(土)午後2時から  
場所:企画展示室内  
※企画展チケットが必要です

**トークイベント 平間至×箭内道彦(クリエイティブ・ディレクター)**

日時:8月4日(日)午後2時から  
場所:多目的スタジオ  
入場無料

※事前申込みが必要です  
※切 7月19日(金)



**常設展のご案内**

7月10日(水)~9月29日(日)

- 第1室:まなざし、その表情
- 第2室:大正という時代
- 第3室:郡山の彫刻家
- 第4室:①版画の技法と表現 ②工芸・デザイン・素材

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2  
Tel. 024-956-2200 Fax. 024-956-2350  
<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

バス JR郡山駅前5番のりば  
「美術館経由東部ニュータウン行」  
「郡山市美術館」下車すぐ

乗用車 東北道「郡山南I.C.」磐越道「郡山東I.C.」より20分  
駐車場130台



**郡山市立美術館**  
Koriyama City Museum of Art



僕にとってカメラは楽器！



平間至《志野清志郎》「NO MUSIC, NO LIFE.」  
2008年6月-7月 ©Itaru Hirama  
|主催| 郡山市立美術館  
|企画協力| 株式会社コンタクト、  
平間写真館TOKYO、  
|協力| タワーレコード株式会社、  
富士フィルム株式会社

**郡山市立美術館**  
郡山市安原町字大谷地130-2  
観覧時間 | 9:30-17:00(最終入場は16:30まで)  
|休館日| 毎週月曜(7/15(月・祝)/8/12(月・祝))  
|休館日| 7/16(火)/8/13(火)休館

**2024.7.6(土) — 8.25(日)**

写真のうた  
Itaru Hirama Exhibition - PHOTO SONGS -  
展

郡山市立美術館  
Koriyama City Museum of Art

# 1枚の写真に生命の躍動を表現する

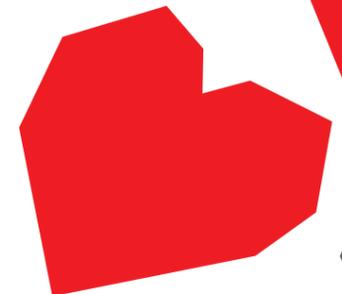
## 写真家・平間至による、「音楽が聴こえる」作品の集大成！



《光と影》大学課題 1984年



《峯田和伸(銀杏BOYZ)》「別冊 風とロック」2006年



《東京スカパラダイスオーケストラ》  
「NO MUSIC, NO LIFE.」  
2019年10月-12月

写真家・平間至はタワーレコードのキャンペーン「NO MUSIC, NO LIFE.」をはじめ、多彩なアーティストを撮った「音楽が聴こえてくるような躍動感のあるポートレート」によって新しいスタイルを打ち出しました。宮城県塩竈市の写真館に生まれ、音楽に強い影響を受けて育った平間にとって「写真と音楽」は普遍的なテーマです。一方、故郷が甚大な被害に遭った東日本大震災を転機に写真館を開き、大切な記憶を紡ぐ写真を提供し続けています。本展ではアーティストたちのポートレートをはじめ、平間写真館TOKYOで撮影された作品群、幼い愛娘の日常写真、郡山市出身のクリエイティブ・ディレクター箭内道彦とのコラボレーションから生まれた写真など約300点を展示します。多様なフィールドで写真の可能性を問い続ける、平間至の豊かな表現世界をぜひご覧ください。

- SONGS #1 原点**  
— いったい写真で何ができるか？
- SONGS #2 仕事**  
— 写真で音楽を鳴らしたい
- SONGS #3 バックステージ**  
— すべては美しさのために
- SONGS #4 田中浜 場踊り**  
— 見えないものの象徴としての写真
- SONGS #5 平間写真館TOKYO**  
— 未来に向けて美しい記憶を残していく

《サンボマスター》  
CD「サンボマスターは君に語りかける」  
2005年



《Yellow Magic Orchestra》  
「NO MUSIC, NO LIFE.」  
2012年7月-9月



《岸田繁》  
「NO MUSIC, NO LIFE.」  
2017年4月-6月



「ROCKIN' ON JAPAN 1992年5月号」  
表紙



《大橋トリオ》2015年



Itaru Hirama Exhibition - PHOTO SONGS-



《忌野清志郎》「月刊 風とロック」  
2005年8月号



《高知崇徳原》2010年 田中浜(場踊り)より



2023年



2022年

《勝手にしやがれ&オダギリジョー》  
「NO MUSIC, NO LIFE.」  
2006年10月